

# 名古屋市消防局

## 会計年度職員採用試験問題

### (筆記)

あなたが会計年度任用職員として採用された場合、名古屋市消防局の様々な課題に対して、消防職員と協力して取り組んでいただることになります。

そこで、裏面の「局長インタビュー～名古屋DNA～」の「1 大切にしているモットーはありますか」の部分を読み、あなたがこれまでの職務経験で「三方一両損」となった出来事と、その時実施した自身の行動を具体的に400字以内で述べてください。



【件名】局長インタビュー～名古屋DNA～



【掲載日】令和7年9月9日

【その他資料】有・無

名古屋市では、新局長が就任したタイミングでインタビューを行い、トップのビジョンや、仕事に対する姿勢など、メッセージを職員に知つてもらおうという取り組みをしています。

局内の若手職員4名が、実際に局長にインタビューをさせていただきましたのでご紹介します。

### 1 大切にしているモットーはありますか。

昔、消防の先輩に言われた、「三方よし」という言葉を大事にしている。仕事をするうえでも、自分も相手も周りも満足できるように目指すことを心がけている。

三方全て良く、全部がいい形で収まることは難しい。みんなが自分の意見を通すのではなく、古典落語で「三方一両損」とあるように、それぞれがちょっとずつ損をしてでも、みんなが納得できる一番いい落としどころを考えて話をするようにしている。

### 2 希望ではない職務に就いた時、どのような考え方で仕事に取り組んできましたか。

やりたい仕事、やりたくない仕事があるかもしれないが、どんな仕事も消防の仕事。自分が消防という仕事を選んで働いているので、前向きに取り組む姿勢を忘れてはいけない。前向きに取り組む姿勢を見ている人は必ずいるし、前向きに取り組むことで、今後の仕事が拓けてくると考えている。

消防という仕事は皆さんの想像以上に広いので、色々な業務を経験することは必ず将来の糧となる。積極的に色々な業務にチャレンジしてもらいたい。



### 3 それぞれの階級で、どのような姿勢で仕事に取り組んできましたか。

全ての階級で「一生懸命」取り組んできた。その中でも、消防士は「がむしゃらに」、消防士長は「広い視点で多くを学ぶ」、主任は「責任を持ち、率先する」ことを意識していた。課長補佐以上の管理職では、「上司として部下の結果に責任を持つ」、「人を育てる」、「部下が働きやすい環境づくり」を常に意識してきた。ただ、階級に関係なく仕事に取り組む「5つの姿勢」を意識しており、講義等、色々な機会で話している。

- ① 人を当てにしない → 相手がやってくれないではなく、どうしたらやってくれるかを考える。
  - ② 人の話を聞く → お互い立場があり、意見がぶつかることもある。まずは相手の話もよく聞く。
  - ③ 下を見ない → 楽をしている人を見ても得ることはない。見るべきものは上。
  - ④ 消防である前に仕事であることを理解する  
→ 給料を貰っている以上は、消防においてもすべてが仕事であることを忘れない。
  - ⑤ 仕事に責任を持つ → 前例踏襲ではなく根拠や理由を考えて、自分の責任で仕事をする。
- +α 管理職は、「人を育て、働きやすい環境を整える」